

令和5年度 東日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会 議事録

開催日時：令和5年12月15日（金） 15：00～16：50

場 所：東日本高速道路株式会社 本社 15階会議室

出席者：寺部委員長、飯島委員、岩村委員、小根山委員、後藤委員、村田委員、山口委員
(WEB出席)

(1) 事後評価の概要と今後の対応方針（案）等

[審議案件]

- ・北海道横断自動車道（余市 IC～小樽 JCT）
- ・東関東自動車道（三郷～高谷 JCT）

[今後の対応方針]

今後の対応方針（案）については、事務局案のとおり了承された。

[主な意見や質疑]

- ・北海道横断自動車道（余市 IC～小樽 JCT）
 - ① 費用便益分析における B/C の算出根拠を含めた前提条件を丁寧に説明すべき。
 - ② スノーシェッドとスノーシェルターの設置に関する判断基準の確認。
⇒橋梁上には軽量なスノーシェルターを設置している。
 - ③ 一般道の事故が交通量の転換以上に減少している理由の確認。
⇒当該地域は降雪による冬の事故が多いため、事故が多い冬により安全に通行できる後志道に転換が進んだ結果、交通量の減少以上に事故が減少した。
 - ④ 漫然運転防止のためのアクセント照明という工夫は素晴らしい取り組み。
 - ⑤ 高速道路が出来たことで高速道路周辺に住んでいる方々の快適性が上がった点や、その他の効果も含めて、高速道路による整備効果を広く広報していくべき。
 - ⑥ 余市より先の高速道路はいつ完成するのか。
⇒余市～仁木間は令和6年度開通予定と公表されている。
 - ⑦ 利用促進の取組は今後 SNS などでの発信も検討してはどうか。

・東関東自動車道（三郷～高谷 JCT）

① 地価上昇には様々な側面があるため、全てを便益として捉えることが適切か検討する必要もあるのではないかと。

② 救急搬送などは共通の指標で整理した方がよいのではないかと。

③ 共通の評価項目や項目のウエイト付けなどはあるのか。

⇒事後評価マニュアルにおいて評価項目を具体的に明記しているが、項目のウエイト付けは無い。

④ 蓋掛け部の公園整備やクロマツの移植などは、直接便益には表しにくいとが地域とつながる非常に大事な取り組みであり、広く発信すべき。

⑤ 次の道路事業につなげていくために、地域への効果や環状道路というネットワークの評価について、広く発信すべき。

⇒例えば、開通後 10 年などの節目に整備効果という形で広く周知する機会があるため、そういった効果も取りまとめて広く発信していく。

⑥ 高速道路は単に早く目的地に着くためだけのものではなく、周辺環境にも非常に良い影響を与えているという点を大人だけでなく、子供たちにも伝えていくべき。

⑦ 環境調査は継続的に実施しているのか。

⇒千葉外環については、継続的に測定していたところ。

⑧ 費用便益分析における B/C の算出根拠を含めた前提条件を丁寧に説明すべき。

(2) 今後のスケジュール等

国および会社における決定・公表までのスケジュールについて報告。

(3) その他（報告）

最近の高速道路の状況（料金徴収期間の延長）について報告。

以 上